

## 応用統計学会 2026 年度年会のご案内（第一報）

2026 年度応用統計学会年会を下記の要領で開催します。今年も現地およびオンラインでのハイブリッド開催と致します。一般講演の募集に加えて、ポスターセッションでの発表も広く募集します。また本年度も学生による一般講演において表彰致します。会員のみなさまの積極的なご参加をお願い致します。参加、講演のお申し込みは 2 月中旬開始予定です。

1. 日時：2026 年 5 月 14 日（木）
2. 開催形式：ハイブリッド（現地＋ライブ配信）（予定）
3. 現地会場：松江勤労者総合福祉センター 松江テルサ
4. 参加費：

本学会員	4,000 円
日本計量生物学会員	4,000 円
非会員	6,000 円
学生（会員・非会員とも）	1,500 円

5. 特別講演：

- ① 深谷 肇一（国立環境研究所）  
「環境 DNA に基づく生物多様性評価のための統計モデリング」
- ② 須山 敦志（Aspire Analytics 合同会社）  
「大規模言語モデルによる統計モデリング自動化の最新動向」

## チュートリアルセミナーのご案内（第一報）

応用統計学会では、日本計量生物学会と合同でチュートリアルセミナーを企画しております。奮ってご参加ください。チュートリアルセミナー参加費は年会参加費とは別となりますのでご注意ください。

1. 日時：2026 年 5 月 15 日（金）午前
2. 開催形式：ハイブリッド（現地＋ライブ配信）（予定）
3. 現地会場：松江勤労者総合福祉センター 松江テルサ
4. 参加費：

本学会員	2,000 円
日本計量生物学会員	2,000 円
非会員	4,000 円
学生（会員・非会員とも）	1,000 円

5. テーマ：極値統計学による統計的モデリング～少数サンプル解析への挑戦～
6. 講師：吉田 拓真（鹿児島大学）
7. 内容：

豪雨や地震などに起因する自然災害、ファイナンスにおける金融リスク、そして製品寿命など様々な現象に関するデータを扱う応用分野において、データ全体の中で極めて大きい、または小さい値の発生確率の見積りは信頼性評価やリスク管理の観点から重要な課題である。この課題に対する統計学的なテーマはデータの最大値や最小値、あるいはそれらに近い分位点の予測となる。そのためには、裾の挙動にのみ焦点を当てた確率モデルを構築することが不可欠である。極値統計学はそのための方法論を示すものである。稀な事象に関わるデータ解析をする際には常に少数サンプル問題が付きまとう。極値統計学ではこの困難を"外挿"と呼ばれるテクニックで攻略する。本チュートリアルでは極値統計学の基本的な考え方、モデリング、そして外挿を導く統計理論について解説する。また、最新の話題についても触れる。